

日本の外務省は、中南米等におけるジカウイルス感染症の流行に関する「感染症危険情報」を更新し、同感染症の流行地域にドミニカ、フィジー、ミクロネシア(コスラエ州)が追加されました。

「レベル1:十分注意してください。」

「特に妊娠中の方又は妊娠を予定している方は、流行国・地域への渡航・滞在を可能な限りお控えください。」

詳細は次のアドレスから内容をご確認ください。

[http://www2.anzen.mofa.go.jp/kaian\\_search/pcinfectioninfolist.asp?pageno=1](http://www2.anzen.mofa.go.jp/kaian_search/pcinfectioninfolist.asp?pageno=1)

また、厚生労働省のホームページにおいても関連情報が提供されていますので、こちらも併せてご確認ください。<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

報道によれば、現在までにフィジー国内で13例の感染が報告されています。

ジカウイルスは、デング熱同様、蚊がウイルスを媒介する感染症で、ウイルスを持ったネツタイシマカやヒトスジシマカに刺されることで感染します。

ウイルスを保有した蚊に刺されて感染してから発症するまでの期間(潜伏期間)は2～12日(主に2～7日)で、およそ2割の人に発症すると言われています。発症すると軽度の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、斑丘疹、疲労感、倦怠感などを呈しますが、一般的にデング熱やチクングニア熱より軽症と言われています。

現在、ジカウイルス感染症には有効なワクチンや特異的な治療法はなく、専ら対症療法が行われます。

そのため、蚊に刺されないようにすることが唯一の予防方法となりますので、外出時は極力肌の露出の少ない服装に心がけ、必要に応じ、虫除けスプレー等を使用する、室内では、電気蚊取り器、蚊取り線香や殺虫剤、蚊帳(かや)を使用するなどして対策を講じてください。

また、規則正しい生活と十分な睡眠、栄養をとることで抵抗力をつけることも発症を防ぐために効果的です。

軽度の発熱、頭痛、関節痛、結膜炎、発疹等が現れた場合には、ジカウイルス感染症を疑って、直ちに専門医師の診断を受けてください。

また、ジカウイルス感染症は小頭症の発生と関連があるとの報告があり、妊娠中又は妊娠を予定している方は、特に注意が必要です。

なお、デング熱やチクングニア熱の発生も例年報告されており、感染経路や症状についてはジカウイルス感染症と類似しているため、これらの感染症についても同様に注意が必要です。